

仙人通信 143 城峰山(1037 m)

城峰山は長瀨の北の蠟梅・寒桜で有名な宝登山から西に延びる尾根筋の秩父層の山で、山頂に展望台を持つ1等三角点の山である。長瀨の先の皆野から神流湖へ抜ける林道の石間峠に車を置いての高低差100 m程のコースで『関東ふれあいの道』が主体である。石間峠には、休憩のテーブルやトイレが整備され、駐車するにはこの上ない場所である。スタートは城峰山と反対方向にある鍵掛城跡である。鍵掛城はご存じのように戦国時代の武田の出城である。視界が利かない檜林の中を東に向かい、木製の100段程の階段を2回ほど詰め、15分程で鍵掛城跡(1003 m)である。武田軍が雁坂峠から葦崎に向けて狼煙を上げたであろう事を考え展望を期待したが、檜林の山頂であり残念である。ホトトギスの囀りと、足元に咲く白いヤマアジサイそしてトリアシショウマがそんな心を慰めてくれました。戻りのピークからは、梢越しに城峰山頂の展望台が望めた。城跡から10分程で峠に戻り、檜林の中を城峰山に向かう。林の下では同様に白いヤマアジサイとトリアシショウマが、そして尾根の北側では白い房状の栗の花も満開である。なんとこちらも15分程度で山頂だ。1等三角点を示す石を確認後、無線中継の鉄塔の展望台へ登る。スタート時まで霧の掛かった状態の山路であったが、展望台上では霧が消え、素晴らしい展望だ。展望台の周囲の手摺には、その方角の山の形と名前が明記されており、磁石と地図を取り出したが不要であった。鳴神山・袈裟丸山・赤城山・子持・小野子・榛名・妙義・御荷舗・赤久縄・両神・雲取等思い出に残る山達である。残念ながら南方面の遠方は、水蒸気で霞んでいるも最高の展望だ。眼下の赤い屋根の城峰神社に向かう。10分程下降した地点に61代朱雀天皇(DC930年代)が日本武尊をこの神社に鎮祭し、更に尾根を5分程進んだ所の天狗岩に、猿田彦大神を祀ったと石碑にある。又平将門の話もこの神社にあり、散策した。たまたま居られた神主さんとお話しもできました。神社の林の中には、赤いシモツケ・トリアシショウマ・蕾が膨らんだレンゲショウマだ。ここからは、キャンプ場に進み林道を石間峠へ戻るコースである。林道の横には、薄紫のミヤマタツナミソウ・濃い紫のホタルブクロ・白いイヌドウシそして半化粧したマタタビも白い花を付けている。肌色の茎に同色の花卉を上向きに付けた「ショウキラン」を初めて発見する事もできました。30分程で石間峠に戻り帰路として、林道から県道284号沿いにある全国滝10位に選ばれた「秩父華巖の滝」に立ち寄り、更に秩父の結願寺である34番霊場「水潜寺」横の沢筋を札立峠までの約1時間の往復を加えた、4時間半(14000歩)の歴史を交えた山旅が出来ました。(h28.7.1)

鍵掛城跡



城峰山山頂



秩父華巖の滝

